

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成23年11月10日 (2011.11.10)

【公表番号】特表2011-521653(P2011-521653A)

【公表日】平成23年7月28日 (2011.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2011-030

【出願番号】特願2011-511987(P2011-511987)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/31 (2006.01)

C 0 7 K 1/14 (2006.01)

C 1 2 P 21/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 K 14/31 Z N A

C 0 7 K 1/14

C 1 2 P 21/00 C

C 1 2 P 21/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月26日 (2011.9.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

免疫グロブリン G Fc 領域結合モチーフBMを含んでいる免疫グロブリン G Fc 領域結合ポリペプチドであって、該モチーフは以下のものから選択されるアミノ酸配列からなる免疫グロブリン G Fc 領域結合ポリペプチド：

i)  $\text{EQQX}_4\text{AFYEIL HLPNLTEX}_{18}\text{QX}_{20} \text{X}_{21}\text{AFIX}_{25}\text{X}_{26}\text{LRX}_{29}$ ，

式中で、互いに独立に、

$\text{X}_4$  は、H および Nから選択される；

$\text{X}_{18}$  は、DおよびGから選択される；

$\text{X}_{20}$  は、RおよびKから選択される；

$\text{X}_{21}$  は、HおよびQから選択される；

$\text{X}_{25}$  は、R、AおよびGから選択される；

$\text{X}_{26}$  は、A、SおよびTから選択される；および

$\text{X}_{29}$  は、G、KおよびAから選択される；

並びに

ii) 少なくとも 85 %の同一性をi)に規定される配列に対して有するアミノ酸配列。

【請求項 2】

請求項1に記載のIgG Fc-結合ポリペプチドであって、前記アミノ酸配列 i)が配列番号1-3から選択されるポリペプチド。

【請求項 3】

先行する請求項の何れか一項に記載のIgG Fc-結合ポリペプチドであって、前記IgG Fc-結合モチーフが三ラセン束タンパク質ドメインの部分を形成するポリペプチド。

【請求項 4】

請求項3に記載のIgG Fc-結合ポリペプチドであって、アミノ酸配列： FWK-[BM]-DPSQSARLLAXaAKKLDDAQを含み、式中の[BM]は請求項1～2の何れか一項に規定のIgG Fc-結合モチーフであり；Xa は、R、G およびQから選択されるポリペプチド。

【請求項 5】

請求項4に記載のIgG Fc-結合ポリペプチドであって、配列番号4～6から選択されるアミノ酸配列を含むポリペプチド。

【請求項 6】

アミノ酸配列が以下のものから選択される一の規定を満たす配列を含むIgG Fc-結合ポリペプチド：

iii) 前記配列が配列番号7～9から選択される配列である；

iv) 前記配列が配列番号7～9から選択される配列と85 %以上の同一性を有しているアミノ酸配列である。

【請求項 7】

先行する請求項の何れか一項に記載のIgG Fc-結合ポリペプチドであって、相互作用の $K_D$ 値が多くとも $1 \times 10^{-6}$  MであるようにIgG Fcと結合するポリペプチド。

【請求項 8】

先行する請求項の何れか一項に記載のIgG Fc-結合ポリペプチドであって、アミノ酸配列が同じ又は異なりえる少なくとも二つのIgG Fc-結合ポリペプチド 単量体の単位を含んでいる多量体の形態のポリペプチド。

【請求項 9】

先行する請求項の何れか一項に記載のポリペプチドをコードしているポリヌクレオチド。

【請求項 10】

IgG Fcを含んでいる分子をサンプルから単離する方法であって、以下の工程を含む方法：

(i) IgG Fcを含んでいる分子を含有しているサンプルを提供すること；

(ii) 前記サンプルを請求項1～8の何れか一項に記載されるIgG Fc-結合 ポリペプチドと接触させて、前記IgG Fcを含んでいる分子を前記ポリペプチドに結合させること；

(iii) 結合したIgG Fcを含んでいる分子を前記サンプルから単離すること。

【請求項 11】

IgG Fcを含んでいる分子を産生する方法であって、以下の工程を含む方法：

(i) 所望のIgG Fcを含んでいる分子を発現させること；

(ii) IgG Fcを含んでいる分子のサンプルを前記の発現物から得ること；

(iii) 前記サンプルを請求項1～8の何れか一項に記載されるIgG Fc-結合 ポリペプチドと接触させて、IgG Fcを含んでいる分子を前記ポリペプチドに結合させること；

(iv) 結合したIgG Fcを含んでいる分子を前記サンプルから単離すること、および

(v) 結合したIgG Fcを含んでいる分子をIgG Fc-結合ポリペプチドから溶出で回収すること。

【請求項 12】

請求項10または11に記載の方法であって、前記IgG Fcを含んでいる分子は、IgG 分子又はその断片である方法。

【請求項 13】

請求項12の何れか一項に記載の方法であって、前記IgGは、モノクローナル IgG 抗体である方法。

【請求項 14】

請求項10または11に記載の方法であって、前記IgG Fcを含んでいる分子は、Fc融合タンパク質である方法。

【請求項 15】

請求項1～8の何れか一項に記載のIgG Fc-結合ポリペプチドを含んでいるアフィニティークロマトグラフィー媒体。